

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791200033		
法人名	株式会社 福祉ケアサービス		
事業所名	ホームズくにみの郷		
所在地	〒975-0015 福島県南相馬市原町区国見町二丁目11番地の1		
自己評価作成日	令和4年9月27日	評価結果市町村受理日	令和4年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・関わりを多く持ち、入居者様が和やかに過ごせるよう支援させて頂いています。
 ・入居者様が望むケアができるよう、職員間情報の共有をしっかりと行い、ケアに活かせるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年11月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.感染対策に努めながら、日常的に近くの公園までの散歩や人混みの無い時間帯でのスーパーへの買い物に出かけたり、人気の回転すし店での外食や地域の名勝地の花見・紅葉狩り、利用者の実家方面等へのドライブを行い、利用者がストレスを溜めないよう支援している。
 2.事業所では馴染みの関係の継続に努め、検温・消毒・マスク等コロナ感染対策をし家族面会を実施している。家族からは、花壇の手入れや生け花の生け方、そば打ち等の協力がある。
 3.食事は、地元の食材業者の献立付き食材を利用しながら日によって調理方法をアレンジしたり、業者へ残食量から工夫をお願いする等している。利用者は、ご飯の盛り付けや菜切り等出来る範囲で手伝っている。また、感染防止に努めながら寿司などの外食の機会を設けたり、テイクアウトを活用するなど食事を楽しむ取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・皆が見える場所に理念を掲示し、意識してケアが行えるよう努力し、迷った時は理念を見返して再確認できるように心がけている。	利用者のニーズや事業所の現状に即した理念を職員が意見を出し合って作成しており、実践の際の原点として意識付けを行っている。また、法人理念と併せて、スタッフルーム等に掲示し、常に確認し意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近隣の方に花壇の手入れ等協力を頂いている。 ・草むしりなど、協力をいただいている。 ・地域との交流は少なく、今後事業所からのアプローチが必要。 ・コロナの影響でさらに交流減少が継続している。	散歩時に地域の方から声を掛けていただいたり、草刈りをしていただく等協力を得ている。また、地域の方や家族、運営推進会議委員の行政区長から地域情報を得るなど、日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域とのコミュニケーションがあまりなく、外部への発信はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	・運営推進会議実施時に報告や相談を行い、随時助言をいただいている。職員会議等で重要な報告等行い、情報を共有している。	コロナ禍の状況を見ながら、集合や書面で定期的に開催している。会議で取り上げられた意見などの課題については、職員会議で話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議を通し、実情を伝えている。今後も継続し伝えていきたい。	市担当職員が運営推進会議に参加している。日常的に電話や直接出向いて相談を行い、事業所の実情を知ってもらうなど、協力関係を築く取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は行っていない。 ・身体拘束に関する研修会参加や勉強会を通し、職員間情報共有し話し合い、ケアに取り組んでいる。 ・夜間のみ玄関の施錠をしている。	身体拘束拘束適正化のための指針を作成し、職員会議を利用して委員会を開いている。また、内・外部研修には職員を派遣し、伝達研修を通して職員全体で身体拘束をしない実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員会議内の勉強会で職員自身の言動等意識しながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・学ぶ機会が少なく、今後研修会に参加するなど学ぶ機会を作る必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・時間をかけながら一つ一つ説明を行っている。 ・質問や疑問についても、こちらから声をかけるなど、ご家族から言いやすい環境づくりを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情を含め、様々なご意見やご要望等あれば速やかに対応できるよう心がけている。	利用者からは、日ごろの関わりの中から思いや意見を聞く工夫をしている。また、家族からは、面会時や電話連絡時にできるだけ会話を多くし、意見を聞く様心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議や普段の会話等を通し、管理者役職者が職員から意見を出しやすい環境づくりに努めているが、実際には意見を聴く機会が少なく、積極的に意見を聴く場を提供する必要がある。	管理者は、職員と気軽に話をする機会を作る他、職員会議では議題を特に設けず自由に意見を出し合える環境づくりに心がけている。記録様式の改善案等の提案があり、運営に反映させている。また、重要な情報は、周知漏れのないよう口頭及び回覧を徹底し、チームワークの構築にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務(休暇)希望については十分に配慮されている(連休など)。 ・職員の家庭の事情等も配慮されており、個々の意見や状況を理解してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修の参加ができていない。 サービスの質の向上のためにも、今後積極的に外部研修等参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協議会主催の研修への参加もできていない。同業者との交流の機会が少なく、今後交流の場を作っていきたい。 ・様々な専門職との交流の場を持ちたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・実態調査の資料をもとに、できる限りご本人のご要望等に耳を傾け、ご本人が伝えられない時は、ご家族からもお話を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面談(打ち合わせ)等行い、少しでも多く意見等伺えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人やご家族の話を聴き、ホームズで提供できるサービスをお伝えしている。ご本人がえられない時はご家族にお話を伺い、臨まれているサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・コミュニケーションを重視し、寄り添いながら望み等伺い、ケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会の時など、随時近況を報告し、必要な時は買い物や外出等の協力を頂いている。 ・できる限り面会や外出等協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族にも協力を頂きながら、外出や、なじみの方の面会等の協力を頂いている。 ・随時ご家族ともコミュニケーションを図り、関係が途切れないよう心がけている。 ・気軽に訪問して頂けるよう心がけている。	検温・消毒・マスク等コロナ感染対策をし家族面会を実施している。家族からは、花壇の手入れや生け花の生け方、そば打ち等の協力がある。また、利用者の案内で自宅周辺や近くの紅葉見物にドライブする等馴染みの関係が途切れない支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・手伝いやドライブなどを通し、利用者同士関わり合いがもてるよう心がけているが、難しい時もある。 ・職員が間に入り関わり合いが持て、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・来訪時や電話連絡時は随時相談等に応じている。 ・退去者様のご家族が来訪され、草刈等協力を頂け、関係性を継続できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人の訴えに耳を傾け、関わりを大切にしてご本人の想いを大切に受け止め、職員間情報を共有し安心して生活していただけるよう努めている。	日頃から利用者の思いや希望を聞くよう配慮している。また、利用者のそわそわした様子から一緒に散歩に出て、思いの把握に努めている。困難な場合は職員間での情報や家族の意見から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族中心に関わりのある方からもお話を伺い、生活歴等の把握に努めている。 ・アセスメントシートを活用し、情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の生活の中で一人ひとりの生活パターンを把握できるよう努め、職員間情報を共有し、ケアに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・面会時などにご家族や関係者などから意見や要望を伺い、職員会議等で意見交換等を行い、内容が反映できるよう心がけている。 ・定期的にモニタリングを行い、介護計画に反映させている。	入居時に、利用者・家族へのアセスメント及び介護認定時の資料を参考に意向に即した計画を作成している。2名の職員が3名の居室を担当し、居室担当職員がモニタリングを実施し会議で話し合い、3カ月ごとに見直しをしている。緊急時には、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケア記録以外でも、職員会議や申し送りノートを活用し、情報の共有に努め、必要時は介護計画に反映させ、質の向上に繋がられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・随時ご家族の意見を聞ける環境づくりが心がけている。必要時は受診等の対応もやっている。 ・会議などで出た意見も吸い上げ、柔軟な対応ができるように心がけている。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を把握できていない。 ・近くの公園やスーパーに足を運んではいませんが、以前に比べ頻度は少なくなっている。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の意見を取り入れ、協力を頂きながら、かかりつけ医と電話や書面にて状況報告等を行っている。 ・随時ご本人、ご家族の希望に沿えることができるよう心がけている。 	基本的に、家族対応の入居前のかかりつけ医を受診している。遠方からの入居者には、地域の複数の医療機関を紹介し選んでいただいている。また、重度化した場合には訪問診療医への変更を勧めている。主治医とは家族を通して書面で情報交換を行い、家族からも口頭で報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師不在の為、できないことや判断に困った時などは、主治医に相談し指示を仰いでいる。 ・看護師不在の為、定期受診時等に医師に状況を伝え、指示を仰いでいる。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時は病院からの連絡や、ご家族を通し、状況を把握している。 ・必要時は病院やご家族に連絡をして状況の確認を行っている。 ・現状はコロナの影響で直接病院へ伺つての確認は病院側で制限されている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に重度化や終末期に向けた方針の説明を行い、以降は半年から1年に終末期の意向確認を行っている。 ・重度化した時や、恐れがある時は、ご家族との話し合いの場を設けている。 ・話し合った内容を記録に残し、共有している。 	契約時に指針に基づき事業所の方針を説明し、書面で終末期の意向を確認して、その後も半年～1年ごとに文書で再確認している。重度化した場合には、主治医・家族・事業所の三者で話し合い、家族の意向により看取りを実施している。訪問看護などによる看護師との連携体制はないが、主治医の訪問診療により看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・急変時や事故発生時、マニュアルを通し迅速に対応できるようにしている。(AED等) ・全体的な訓練は行えていない。(外部研修で参加していたが、コロナの影響で参加できていない) 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・火災訓練、通報訓練、火災避難訓練を定期的実施している。利用者を交えての訓練は実施しておらず、実施していきたい。 ・地震の訓練が行えていない。地域との協力体制が築けていない。 	消防署立ち会いで総合訓練を年1回実施している他に、事業所で独自に年3回、訓練を実施している。なお、実施している訓練は火災を想定した通報訓練や消火訓練のみで利用者が参加する避難訓練は実施していない。また、運営推進会議委員が避難訓練に参加したことはなく、地域との協力体制も築けていない。	利用者が参加する避難訓練を実施していないので、避難訓練を含め夜間・地震など様々な想定でのより多くの訓練が望まれる。また、運営推進会議委員の避難訓練への参加を図りながら地域との協力体制の構築に向けた取り組みが望まれる。さらに、備蓄に水がないため、品目等の見直しが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの人生観などを尊重し、言葉遣い等留意しながらケアを行っている。 	利用者の訴えを傾聴し、本人の思いに寄り添いプライドやプライバシーに配慮した言葉遣いに留意しながらケアに努めている。特に、トイレ誘導や入浴の場面では本人の羞恥心に配慮した言葉かけを行い、着替えの時にはバスタオルをかけるなどの対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の話を聴き、訴えを出しやすい環境を意識しながら日々のケアを行っている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り1人ひとりのペースを大切にするよう心がけているが、その日の職員数や忙しさで、業務優先になってしまうことがある。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に訪問カットを行っている。 ・ご家族の協力を得て、馴染みの美容室への外出を行っている。 ・頻度は少ないが、外出時、普段よりおしゃれな衣装で外出できるように支援している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の下準備や盛り付けなどを一緒にやっている。 ・職員も一緒にテーブルで食べるようにしている。 ・可能な時は食べたい物を買いかけることもできている。 	地元の食材会社から献立付きの食材の配送を受け、職員が料理を行っている。食材会社では利用者の好みや行事・イベントに合わせた献立の変更等に応じてくれる。一部の利用者は、ご飯の盛り付けや食材切りなど食事づくりに参加している。また、コロナ禍でも感染防止に努めながら寿司などの外食の機会を設け楽しんで貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック表を活用し、摂取状況の把握努めている。 ・摂取が難しいような時は、声かけや提供形態の工夫をし、摂取に繋げている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後行えない利用者もいるが、声かけ等工夫し、出来る限り自力で行えるよう支援している。就寝前は行えている。 ・自力で行えない利用者へは介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄表を活用し、排泄パターンを確認しながらトイレ誘導を行っている。 ・静かに声かけするなど、利用者様に応じた対応をしている。	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、一斉のトイレ誘導でなく、利用者に応じた定時誘導を行っている。また、排泄の予兆となる仕草などを把握して随時のトイレ誘導に努めている。歩行困難や失禁が見られるようになっても、諦めずに、トイレで便器に座って排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・乳飲料等提供したり、運動量を増やすなど出来る限り自力排便を促す対応をしている。 ・利用者によっては、薬の併用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・利用者の希望に沿えないこともあるが、声かけ等工夫しながら、無理に実施することなく、気持ち良く入浴出来るよう支援している。 ・3日に1回になっていることが多い。	週に2～3回、3日に1回の入浴としている。利用者ごとにお湯を入れ替え、希望により入浴剤を使用して楽しんで貰っている。また、利用者の好みに応じて入浴時間を調整し、ゆっくり入浴できるよう支援している。職員は一緒に歌を歌ったり、利用者の話を傾聴して気持ちよく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・体調や年齢に応じて休んで頂いている。 ・エアコンを適宜使用し、室温の調整を行い安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服薬の情報を常に確認できるようカルテに綴じている。 ・内服薬の変更があった場合には申し送りをを行い、間違いのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者の得意なこと、できることを理解した上で声かけを行い、職員や利用者と一緒に関わりをもつよう努めている。 ・まだ不十分ではあるが、関わりの中から楽しみを見つけ、支援へと繋げるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で協力しながらドライブや買い物など行っている。 ・ご家族の協力を得て、外出できている利用者もいるが、一人一人の希望に沿った外出はあまり行えていない。 ・個別に外に出れるよう支援している。 	<p>コロナ禍でも感染防止に努めながら、近くの公園への散歩や商店での買い物に出かけている。また、敷地内の草むしりや中庭での日光浴など、日常的に外出を支援している。特に、利用者の外へ出たいとの気持ちを察知して、時間を置かずに出出するようにしている。さらに、定期的に近隣の景勝地や利用者の実家などへのドライブを行っている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の管理は職員が行っている。 ・所持されている方はおられないが、管理しながら、お小遣い入れに少量お金を入れ、買い物等の支援ができるようにしている。(全員ではない) 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族から届く手紙に関してはご本人に渡している。 ・ご本人の希望時などには、ご家族に電話ができるように支援している。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンを使用や換気を行い温度管理をしている。(温度計、湿度計を設置) ・掲示物等で季節感が出せるように工夫している。 ・日差しが直接当たらないよう、季節に応じて布やすだれ等使用している。 	<p>リビングには、季節に応じたや貼り絵などの利用者の作品を掲示している。フロアや玄関などに配置してあるソファやフロアに隣接する談話スペースなど利用者が好みの場所で寛げるよう配慮している。また、温・湿度計により調整を行い、エアコンや日差しが直接当たらないよう布などを使用して快適に生活できるように工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・席の配置や別のフロア(リハビリルーム)の活用や、他のスペースに椅子、ソファを置く等寛げる場所を設けている。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の写真を居室内に掲示したり、家具等を持ち込めるように支援している。 ・家具等の置き場所は、地震等で怪我をしないよう配慮している。 	<p>居室には、エアコン、ベッド、チェスト、洗面台が備え付けられている。利用者はダンス、衣装ケース、テレビ、ぬいぐるみなど馴染みのものを持ち込み、家族の写真を飾って、その人らしい部屋づくりを行っている。職員は、利用者の利き手やADL、動線を考慮して家具の配置などのアドバイスを行い安全で快適に過ごせるよう支援している</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・移動時混乱しないように表示をしたり、声かけや見守りを行い、自立した生活が送れるよう工夫している。 ・トイレ等の表示を行い、場所が分かるよう配慮している。 		